

# 図書館だより

No.8

令和5年12月  
大洲中学校図書館



みなさんこんにちは。2023年も残りあと1か月となりました。アツという間の一年間といった感じですが、みなさんはどんな一年間でしたか？2023年の干支(えと)は卯(うさぎ)年で、うさぎの優しく温厚なイメージから「家内安全」、跳ねる姿から「飛躍」、「向上」の年と言われています。新しいことを始めるのに最適とされ、それまでの積み重ねてきたことが大きく発展して実る年とも言われています。さてみなさん、振り返ってみてどうだったでしょうか。

では、2024年の干支はわかりますか？来年は辰(たつ)年です。そして辰年はどんな年になるのかと言いますと、天高くのぼる竜に守られ、「強運」や「お金に困らない」年になると言われています。

さて、2024年はどんな年になるでしょうか。良い年になるようみんなでお願しましょうね。

## 「冬休み特別貸出」のお知らせ

今年の冬休みは去年よりも少々長いようです。ということで、今年は「冬休み特別貸出」を行うことにしました。貸出冊数も「7冊」とします。貸出期間は12/18(月)～翌年の1/9(月)の三週間です。みなさん、夏休み同様にたくさん借りにきてくださいね。そのため、新しく本を購入しました。中学校に到着するのは12月4日の予定です。乞うご期待！です。今回購入した本の中で一番のオススメは「続 窓ぎわのトットちゃん」です。

この本は黒柳徹子さん、42年振りの続編で、世間の注目度はとても高い本です。戦後最大のベストセラーといわれ、1981年に出て世界累計発行部数が2500万部を超える「窓ぎわのトットちゃん」は著者がまだ子供でトットちゃんと呼ばれていたころ、トモエ学園という小学校に通って見聞きしたできごとが綴られていて、好奇心旺盛なトットちゃんと、それを見守る優しい校長先生との交流が感動を呼びました。それから42年。今年の10月に刊行された「続 窓ぎわのトットちゃん」は、トモエ学園を離れたトットちゃんが、窓際に立たされても、壁際に追い詰められても、自分自身を貫き通して道を切り開いてきた姿が描かれていて、新たな感動を誘います。大好きだったトモエ学園を離れるきっかけにもなった戦争でいったい何があったのか。その自らの体験を書き残しておきたいと考えたことが『続 窓ぎわのトットちゃん』の執筆動機だったそうです。(Wikipedia 他参照)

図書館では、「続 窓ぎわのトットちゃん」といっしょに「窓ぎわのトットちゃん」も同時展示をしています。新旧の作品を読み比べてみてはいかがでしょうか。

「続 窓ぎわのトットちゃん」以外にも

- 3年間ホケツだった僕がドイツでサッカー指導者になった話 中野吉之伴 著(理論社)
- 5分後に意外な結末 ex インディゴを乗せた旅の果て 桃戸ハル 編著(Gakken)
- 保健室のアン・ウニョン先生 チョン・セラシ 著 斎藤真理子 訳(亜紀書房)
- もし ChatGTP が文豪や〇〇としてカップ焼きそばの作り方などを書いたら 爺比亭茶斗著(光文社)
- 木曜日にはココアを 青山美智子 著(宝島社)
- 1日3分でしなやかな心が育つ“禅”のことば 大愚元勝著(講談社)

など合計で20冊の本を注文しましたので、新年を新しい本で迎えるのも楽しいかも知れませんね。

それでは皆様、よいお年をお迎えください。